

1 単元名 むかしのお話を読む「いなばのしろうさぎ」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領第1学年及び第2学年の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「ア 伝統的な言語文化に関する事項」「(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。」を受けて設定されている。

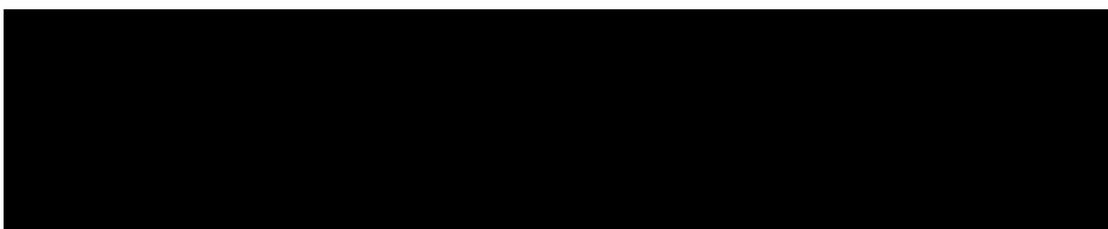
児童が伝統的な言語文化としての古典に出会い、親しんでいく始まりとして、昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞いたり、それらを発表し合ったりすることを示している。神話・伝承は、一般的には特定の人や場所、自然、出来事などと結び付けられ、伝説的に語られている物語であり、古事記、日本書紀、風土記などに描かれたものや、地域に伝わる伝説などが教材として考えられる。

低学年では、まず、読み聞かせを聞くことで、伝統的な言語文化に触れることの楽しさを実感できるようにすることが大切である。話のおもしろさに加え、独特の語り口調や言い回しなどにも気付き親しみを感じていくことを重視する。「C読むこと」(2)の「イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。」と関連付けて、初歩的な語りや劇、紙芝居などによる発表活動を工夫するようにしたい。

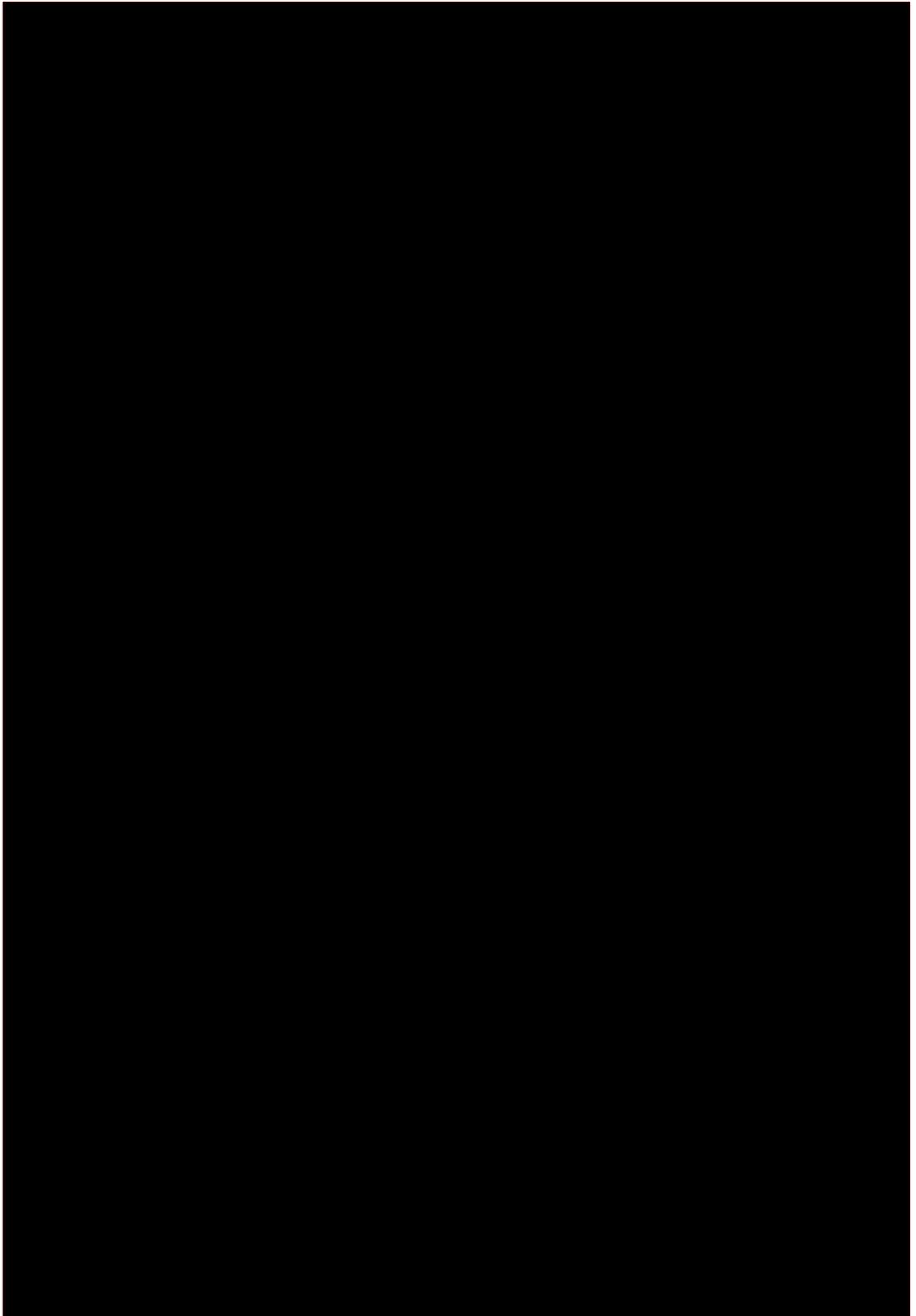
「いなばのしろうさぎ」の出典は『古事記』である。今から1300年以上も前から出雲地方(今の島根県東部)に伝わっていた「お話」として発表し合ったり読み聞かせをし合ったりして楽しみたい。途中から「うさぎ」が語る、劇中劇的な構成になっている。この話は、「うさぎ」に対してとった、八十人の神様と「おおくにぬし」の行為を対比することで、「おおくにぬし」の神性を強調することが重点となっているが、本教材はそれを読むことがねらいではない。昔から伝わってきたファンタジックな物語として、その「おもしろさ」を感じ取ることができればよい。

また、各地には古くから伝わる「お話」があると思われる。「いなばのしろうさぎ」の学習と並行して、いろいろな神話や民話を読んだり、千葉県の子神話や民話にも関心をもたせたりしていきたい。なかでも神話・伝承は、児童にとってなじみのないジャンルなので、地域のボランティアの方に読み聞かせをしてもらったり、好きなどころを話し合ったりする活動を通して、神話・伝承に親しむ態度を育てていきたい。

(2) 児童の実態



本単元を指導するにあたり、国語科の学習に対しての意識調査を行った。



(3) 支援・指導

音読にも読み取りにも能力差があり、大勢の前で発表することに萎縮し、声も小さくなってしまう児童が少なくないという学級の実態から、友だちと一緒に学習をするグループ活動を取り入れて、精神的な負担を少しでも軽くし、自信をもって発表できるように、そして、できた・がんばった喜びや達成感を味わわせていきたい。

「すみれとあり（本をさがして読む）」の教材で、すみれが種をとばす様子を紙芝居を使って説明したり、ありが種を運ぶ様子をペープサートを使って説明したりする活動に子どもたちは意欲的に取り組んできた。この学習に入る前に、音読カードを使って音読練習をさせたのが功を奏してか、音読にも自信をもって取り組めた児童が多かった。本單元においても、この経験を生かしていきたいと思う。

尚、神話・伝承は児童にとってなじみのないジャンルなので、教師や地域のボランティアの方の読み聞かせの時間を設け、より親しみをもてるような働きかけをしていく。また、本学級の児童は、冒険物やお化けの話、生き物の図鑑を好む傾向があるので、神話や民話（世界の民話も含む）のジャンルにも興味をもてるよう、読んだらシールを貼れるようなカードを準備し、伝統的な言語文化に触れることの楽しさを実感できるようにしていきたい。

いろいろな神話・伝承に出会ったら、グループごとにお気に入りの話（場面）を選び、ペープサートや紙芝居や読み聞かせなどで友だちに紹介する活動を行うことで、よりやる気もち、興味や関心も広がると考える。

<つきたい力>

- 神話・伝承などの本に興味をもち、楽しく読み合う力

3 仮説との関連

<仮説①>

子どもたちに目的を明確にもたせて読ませれば、自分の考えをもつことができるだろう。

「いなばのしろさぎ」の学習に入るときに、「お気に入りの神話を友だちに紹介しよう」という目的を提示する。そして、発表会では、発表を聞いた感想を話したり書いたりすることも伝える。そのことにより、学習の見通しをもたせるとともに、神話を読むことに対する意欲を高める。

「いなばのしろさぎ」は「古事記」の中の有名な物語であるが、子どもたちにとっては、ややもすると「一度も聞いたことがない話」になる。学習前から音読カードを使って音読練習をさせておき、話の概略をつかませるようにする。昔から伝わってきたファンタジックな物語として、その「おもしろさ」を感じ取らせるために、神話・伝承の導入として、いなばのしろさぎが、わに（さめ）とやりとりする場面を取り上げ、ペープサートを使った音読劇を取り入れる。ここでは、うさぎとわに（さめ）のやりとりを中心に簡単な教材を教師側が用意する。短い時間で劇を楽しむことは、神話・伝承を使って学習する目的意識をもたせ、神話・伝承に興味をもたせるのに有効である。ペープサートを動かし、演じながら話の展開のおもしろさを味わうことができれば、神話・

伝承に親しみをもつものと考えられる。ペープサートを使った音読劇は、登場人物の動きを確実に意識できるため、登場人物の行動を読むのにも効果的である。

<仮説②>

表現活動の場を工夫すれば、目的に応じた表現をすることができるだろう。

各自が、読んだ神話・伝承の中でお気に入りの一話（場面）を選び、グループで話し合って紹介する一話（場面）を決め、「おもしろいところ」をペープサートや紙芝居や読み聞かせなどで友だちに紹介する。「いなばのしろうさぎ」の音読劇で、教師が用意した教材を参考にして、物語の構造を理解し、情景や心情を豊かに想像できるようにするために、自分の言葉でお話を書き換えたり、書き込んだりして台本を作ってもいいことを知らせる。

4 単元の目標

- 神話・伝承などの本に関心を持ち、楽しみながら読んだり、友だちにわかりやすく発表しようとしている。（関心・意欲・態度）
- 場面の様子や物語の流れをつかみながら、心情や状況が伝わるように工夫して読んでいる。（読むこと）
- 神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりして伝統的な言語文化に親しんでいる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

5 指導計画（10時間扱い）

過程	時配	学 習 活 動	○支援 ◇評価
つかむ (1)	1	<ul style="list-style-type: none"> ・単元全体の内容を確認し、学習の見通しをもつ。(仮説1) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>お気に入りの神話を友だちに紹介しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教師による読み聞かせを聞き、「いなばのしろうさぎ」の話に興味をもたせる。(仮説1) ・「いなばのしろうさぎ」の音読をくり返し、話の内容をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「お気に入りの話（場面）をいろいろな方法で紹介する」という目的をもたせる。 ○挿絵を示しながら、話の内容に興味をもたせるとともに、途中で途中で止めて、話の展開を考えさせながら読み進める。 ◇学習の見通しをもっている。 ◇話の展開や登場人物の言動を楽しみながら読み聞かせを聞いている。 ◇物語の読み聞かせを聞いて、音読の楽しさに気付いている。
表す・	2	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を話し合う。 ・神話・伝承に興味をもたせるために、ペープサートを使った音 	<ul style="list-style-type: none"> ○感想を考える際に、おもしろかったところ、ドキドキしたところなど観点を与えて考えさせ、

深 め る (4)		読劇を行い，楽しむ。(仮説1)	理由も付け加えるようにさせる。 ○音読劇の作り方を知るために，教師が音読資料を作成し，掲示する。 ○役割を交代させながら何度も音読させる。 ○音読劇をするときの工夫の仕方やコツについて共通理解を図り，他の話でもやっ払いこうと投げかける。紹介の方法について他にないかも考えさせる。 ◇おもしろいところを発表し，話し合っている。 ◇声の大きさや速さに気をつけて音読している。
	2	・神話を読んだり，読み聞かせを聞いたりして，好きな話を見つける。(仮説1)	○神話を読んだり読み聞かせを聞いたりさせる。 ○地域の方による，読み聞かせや語りを聞く。 ◇興味をもって聞いている。
	(朝読書・休み時間・家庭学習など随時)(仮説1) ・たくさんの神話や民話を読む。 ・教師の読み聞かせを聞く。 ◇お気に入りの話を見つけている。		
ま と め る (4)	1	・自分が読んだ神話の中からお気に入りの話を選び，そのおもしろさを紹介する。 (仮説2)	○自分のお気に入りの一話を理由とともにグループで紹介し合わせる。 ○グループで話し合い，紹介する本，紹介の方法を決定する。 (ペープサート・紙芝居・読み聞かせなど) ◇自分のお気に入りの話を理由とともに紹介している。
	3	・選んだ話のあらましを話し合い，おもしろいところを決定し，紹介する準備を進める。(仮説2)	○話のおもしろいところを話し合い，それを伝える準備をする。 ○物語の構造を理解し，情景や心情を豊かに想像できるようにするために，自分の言葉でお話を書き換えたり，書き込んだりし

			<p>て台本を作ってもいいことを知らせる。</p> <p>◇おもしろいところについて、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。</p> <p>◇登場人物の行動に気をつけて読み、場面の様子を想像し、演じている。</p>
広げ る (1)	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・おもしろいところが伝わるように発表する。(仮説2) ・それぞれのお話を紹介し合い、感想を述べ合う。(仮説2) 	<p>○グループごとに準備したものをおもしろいところが伝わるように発表させる。</p> <p>○他のグループの発表についての感想を話したり書いたりさせる。</p> <p>◇おもしろいところについて、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。</p> <p>◇登場人物の行動に気をつけて読み、場面の様子を想像し、演じている。</p> <p>◇友だちの音読劇を観劇した感想をもっている。</p>

【並行読書】

書名	著者名	出版社名
天の岩戸 (日本の神話1)	西野綾子	ひくまの出版
ヤマタノオロチ (日本の神話2)	西野綾子	ひくまの出版
イナバの白うさぎ (日本の神話3)	西野綾子	ひくまの出版
地のそこの国 (日本の神話4)	西野綾子	ひくまの出版
ちいさな神さま (日本の神話5)	西野綾子	ひくまの出版
ちからじまんの神さま (日本の神話6)	西野綾子	ひくまの出版
コノハナサクヤヒメ (日本の神話7)	西野綾子	ひくまの出版
ウミサチとヤマサチ (日本の神話8)	西野綾子	ひくまの出版
まぼろしの白いクマ (日本の神話9)	西野綾子	ひくまの出版
ヤマトタケル (日本の神話10)	西野綾子	ひくまの出版
おそろしいよみの国	たかしよいち	あすなる書房
ほらあなにかくれた神さま	たかしよいち	あすなる書房
スサノオのオロチたいじ	たかしよいち	あすなる書房
皮をはがれた白うさぎ	たかしよいち	あすなる書房

神さまの力くらべ	たかしよいち	あすなろ書房
火から生まれた王子たち	たかしよいち	あすなろ書房
海さちひこ山さちひこ	たかしよいち	あすなろ書房
わにざめになったおきさき	たかしよいち	あすなろ書房
からすが教えた道	たかしよいち	あすなろ書房
白鳥になった王子	たかしよいち	あすなろ書房
くにははじまり (日本の神話第1巻)	舟崎克彦	あかね書房
あまのいわと (日本の神話第2巻)	舟崎克彦	あかね書房
やまたのおろち (日本の神話第3巻)	舟崎克彦	あかね書房
いなばのしろうさぎ (日本の神話第4巻)	舟崎克彦	あかね書房
すきのおとおおくにぬし (日本の神話第5巻)	舟崎克彦	あかね書房
うみさちやまさち (日本の神話第6巻)	舟崎克彦	あかね書房
やまたのおろち (復刊・日本の名作絵本1巻)	羽仁進	岩崎書店
にはほんたんじょう (復刊・日本の名作絵本2巻)	岸田衿子	岩崎書店
おおくにぬしのぼうけん (復刊・日本の名作絵本7巻)	福永武彦	岩崎書店
うみひこやまひこ (復刊・日本の名作絵本8巻)	与田準一	岩崎書店
うみぼうず	岩崎京子	教育画劇
赤神と黒神	まつたにみよこ	ポプラ社
おいてけぼり	さねとうあきら	教育画劇
おにのここづな	さねとうあきら	教育画劇
おんぶおばけ	松谷みよ子	童心社
かっぱのてがみ	さねとうあきら	教育画劇
かっぱのすもう	小沢正	教育画劇
こそだてゆうれい	さねとうあきら	教育画劇
たのきゅう	小沢正	教育画劇
ばけものでら	岩崎京子	教育画劇
やまのねこやしき	さねとうあきら	教育画劇
ゆきおんな	まつたにみよこ	ポプラ社
ひこいちばなし	おおかわえっせい	ポプラ社
はなたれこぞうさま	川村たかし	教育画劇
ねずみきょう	香山美子	教育画劇
のらくらとらやん	なかむらみさこ	ひかりのくに
ふるやのもり	いまえよしとも	ポプラ社
あほう村の九助	おおかわえっせい	ポプラ社
だんご どっこいしょ	大川悦生	ポプラ社
あたまにかきの木	小沢正	教育画劇
いもごろごろ	川村たかし	教育画劇
おならのしゃもじ	小沢正	教育画劇
若がえりの水	川村たかし	教育画劇
てんぐのはうちわ	香山美子	教育画劇

もくべえのうなぎのぼり	さねとうあきら	教育画劇
たぬきむかし	よしざわかずお	ポプラ社
もとりごんべえ	さいごうたけひこ	ポプラ社
ふしぎなたけのこ	松野正子	福音館書店
ぶらぶらたろすけ	いいじまとしこ	ひかりのくに
へっこきあねさがよめにきて	大川悦生	ポプラ社
かっぱとひょうたん	若林一郎	ほるぷ出版
おしょうとこぞう	大川悦生	ポプラ社
やまんばとこぞうさん	まつおかせつ	ひかりのくに
ゆめみこぞう	かんざわとしこ	ひかりのくに
しらすぎちょうじゃ	かくのぶゆき	ポプラ社
さんまいのおふだ	水沢謙一	福音館書店
くわずにょうぼう	稲田和子	福音館書店
りゅうぐうのおよめさん	まつたにみよこ	ポプラ社
へそもち	渡辺茂男	福音館書店
こぶじいさま	松居直	福音館書店
したきりすずめ	石井桃子	福音館書店
かちかちやま	おざわとしお	福音館書店
うまかたやまんば	おざわとしお	福音館書店
おそばのくきはなぜあかい	いしいももこ	岩波書店
やまんばのにしき	まつたにみよこ	ポプラ社
ねこのおんがえし	なかがわりえこ	のら書店
十二支のはじまり	いわさききょうこ	教育画劇
チワンのにしき	きみしまひさこ	ポプラ社
世界の民話（上）	きみしまひさこ他	実業之日本社
世界の民話（下）	きみしまひさこ他	実業之日本社

6 本時の指導 (10/10)

(1) 目標

- 自分が選んだ神話・伝承を楽しく発表したり，友だちの発表を興味深く聞いたりしようとしている。(関心・意欲・態度)
- 選んだ神話・伝承のおもしろいところを自分たちが選んだ紹介の仕方です楽しく発表している。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

(2) 展開

時配	学 習 活 動 と 内 容	○指導上の留意点 ◇評価
1	1 本時の学習問題を確認する。 お気に入りの神話を友だちに紹介しよう。	
3	2 発表の仕方を確認する。	○発表者は，自分たちが選んだお話の「おもしろさ」を伝えられるように，「はっきりと」「大きい声で」「ゆっくりと」話すように助言する。 ○聞き手は，発表者が伝えたい「おもしろいところ」を逃さずによく聞くことや上手なところを見つけられるように聞くよう助言する。
	<p><発表者> 私たちの一番のお気に入りのお話は「〇〇〇〇〇」です。 なぜかというところ、～というところがおもしろいからです。 では〇〇〇（紹介の方法）で発表します。</p> <p><聞き手> 上手なところや感想をワークシートに書く。</p>	
3 8	3 発表会をする。(仮説2)	◇おもしろいところについて，語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。

3	4 発表を聞いて、思ったことを発表する。	◇登場人物の行動に気をつけて読み、場面の様子を想像し、演じている。 ◇友だちの発表を興味深く聞いている。
---	----------------------	---

(3) 板書計画